



試乗を通じて自動操縦トラクターの性能を再認識した
農業従事者ら（幕別町の実演会会場）



セイカン工業で取り扱い
を始めたスカイマティク
ス社のドローンを紹介す
る塚田社長

ドローンによる農薬散布を行うには農林水産航空協会（東京）の指定を受けた施設で教習を受け、オペレーターの認定証を得る必要がある。セイカン工業は昨年、TEAD社のドローンの指定教習所にもなっている。

スカイマティクスは国内で機体を開発、製造している。スマートフォンやタブレットを使い、ネットで散布記録を管理できるのが特徴で、セイカン工業は農家の利便性も高

いと判断し、教習所を開設した。

教習は、ドローンやラジコンヘリコプターの操作経験に合わせて1日、3日、5日の3コースがある。料金はテキスト代、認定申請料を含め、それぞれ5万5000円、18万円、28万円。

塚田社長は「ドローンは飛行を支援するアシストモードがあり、将来可能となる自動航行にも対応できる。操作しやすいため教習所を開設した」としている。

◆ドローン教習所開設 セイカン工業

【幕別】農業資材販売のセイカン工業（札幌市、塚田真敏社長）の帯広支店（町札内春日町）は、同支店でスカイマティクス（東京）の農薬散布ドローン認定教習所と整備所を開設した。併せて同社のドローン（小型無人飛行機）とともに、散布情報をインターネット上で記録、管理するクラウドサービスの取り扱いも始めた。

ドローン活用 シカ駆除 上空から発見、地図に表示

2018年4月30日

【幕別】ドローンを活用したシカの一斉駆除が22日、町内で行われた。幕別、大樹、広尾の3町は3月、ドローン（小型無人飛行機）によるシカ駆除システムの実証試験に取り組むキャリオ技研（本社名古屋市、富田茂社長）と連携協定を締結、今回が初の事業となった。



ドローンを操作する関係者

ドローンが上空から赤外線カメラでシカの居場所を熱感知し、その情報を基に駆除を行う試み。

ドローンを午前2時ごろから上空約40メートルの高さに飛ばして調査。道猟友会帯広支部幕別部会（矢野喜典部会長）の35人が西猿別近隣センター（町猿別）に集まり、午前4時半ごろから茂発谷川沿いを中心にシカを探した。

ドローンはシカを上空から発見し、網目状に分割して地図に表示。ただ、地表では確認できなかった。最終的に猟友会のメンバーが独自に発見し、1頭を狙撃した。

矢野部会長は「キャリオ技研の関係者が幕別の地形をよくわかっていないハンディがあった。実績を積みればもっと効率がよくなる」と強調。富田社長は「特殊なフィルターを使い、人とシカの違いを見分けることはできた。ほぼイメージ通りで成功」と手応えを得ていた。

町農林課は「具体的な課題が見えた。今後も継続したい」と、来年以降も同時期に行う考えを示した。



地図を見ながら話し合う
猟友会メンバーら